

埼玉県コンテナラウンドユース推進の取組

平成28年度の活動結果について



平成29年2月9日 第6回埼玉県コンテナラウンドユース推進協議会
埼玉県 都市整備部 都市計画課

1

目次

1. 埼玉コンテナラウンドユース社会実験の総括
2. 平成28年度の推進協議会の取組報告
3. 今後のSCRUについて

1. 埼玉コンテナラウンドユース社会実験の総括

2. 平成28年度の推進協議会の取組報告

3. 今後のSCRUについて

3

SCRUの取組

日本一の交通の要衝 企業立地が進む埼玉



東日本の大動脈「東北」・「関越」・
「常磐」自動車道が南北に縦断

既存の高速道路と連結する「外環道」・
「圏央道」が東西に横断

過去10年間の企業転入超過数
全国1位 1324社 (H14~H23の10年間)

物流・保管施設候補地
全国1位 (H26)

工場候補地
1位海外 2位愛知県 **3位埼玉県**



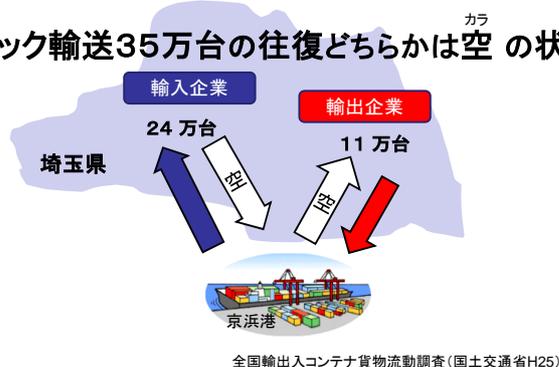
出展 株式会社データバンク資料

4

現状

①非効率な物流

トラック輸送35万台の往復どちらかは空の状態



②物流量は年々増加

京浜港のコンテナ物流量

5年間で 輸出は1.75倍
輸入は1.63倍

全国輸出入コンテナ貨物流動調査(国土交通省H25)



港のコンテナの受渡しは慢性的な渋滞
【東京港 平均1時間】

東京港各コンテナターミナルにおける海上コンテナ車両待機時間調査
(一般社団法人東京都トラック協会H27.5)

コンテナラウンドユースで効率的な物流

コンテナを港に返却することなく継続して利用

期待される効果

- ① 企業の物流効率が向上(荷主・ドレージ)
- ② 港での待機時間短縮による労働環境改善(ドレージ)
- ③ トラック輸送距離減による環境への配慮(荷主・ドレージ)
- ④ 港でのコンテナストック過多解消の一助(船会社)
- ⑤ 企業の生産性が高まり
埼玉県へ企業立地、既存企業の定着率向上(県)

埼玉コンテナラウンドユース推進の仕組

埼玉県コンテナラウンドユース推進協議会 H26.10.21設立

多社異業種による構成



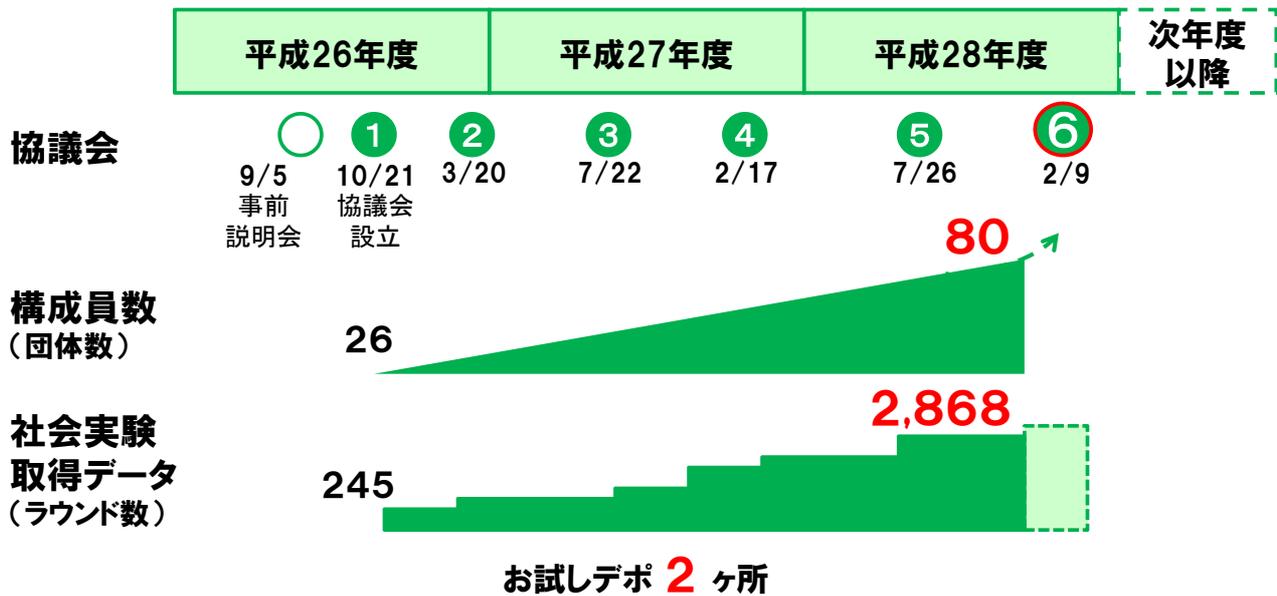
企業連携・推進活動を
後押し



構成員80団体(平成28年11月30日現在)
県、物流関係事業者(荷主、陸運事業者、船会社)
のみならず保険会社、地元金融機関等が参加

取組
(1) 企業間の情報交流の場を提供 H26.10~
(2) コンテナラウンドユース社会実験 H26.11~H29.1まで実施
(3) コンテナラウンドユースに係る保険制度 H26.10~
(4) コンテナマッチング支援システム H27.1.20~試行
(5) お試しデポ試験運用 H27.8~

取組の経過状況



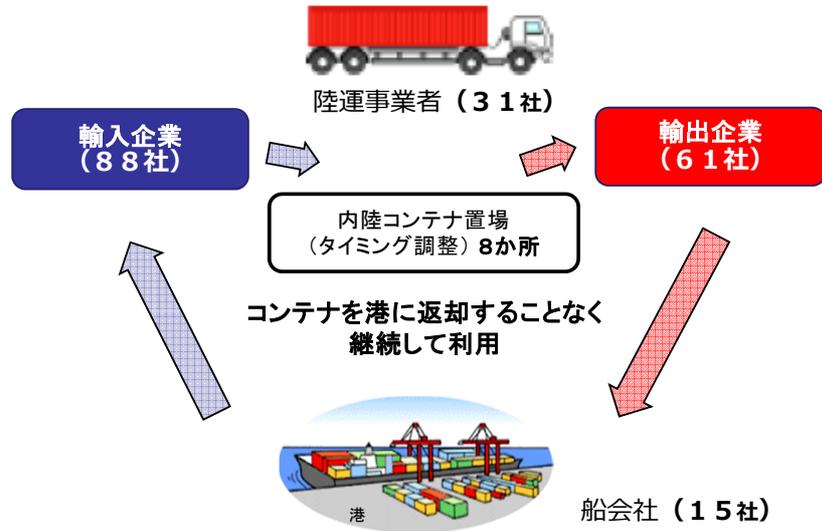
社会実験報告件数 と 参加企業数

【社会実験】

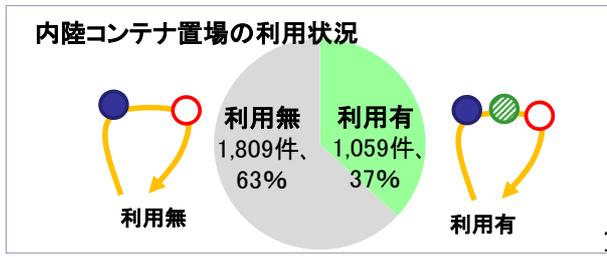
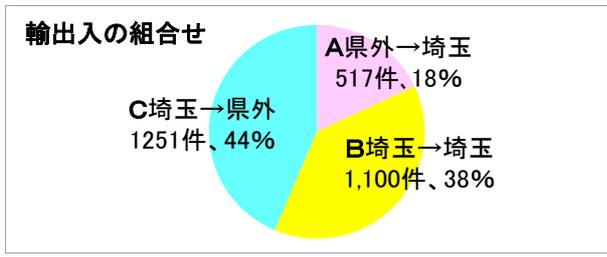
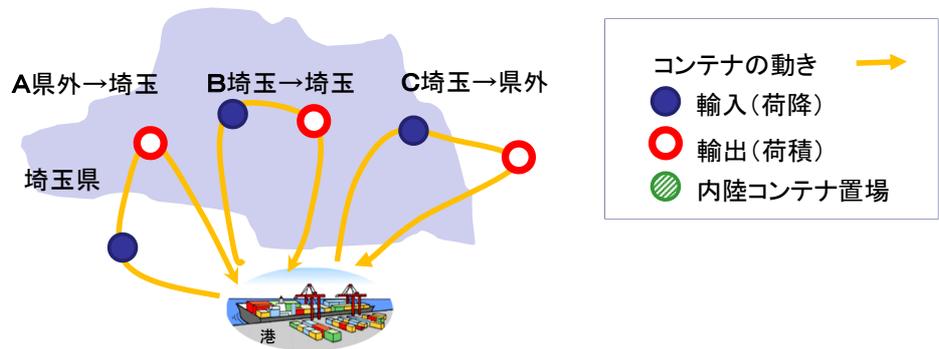
報告件数 **2,868** 件
 (内貨転用 21件含む)
 (H28.10月末までの実績)
 1ラウンド：1件

報告者 (19社)

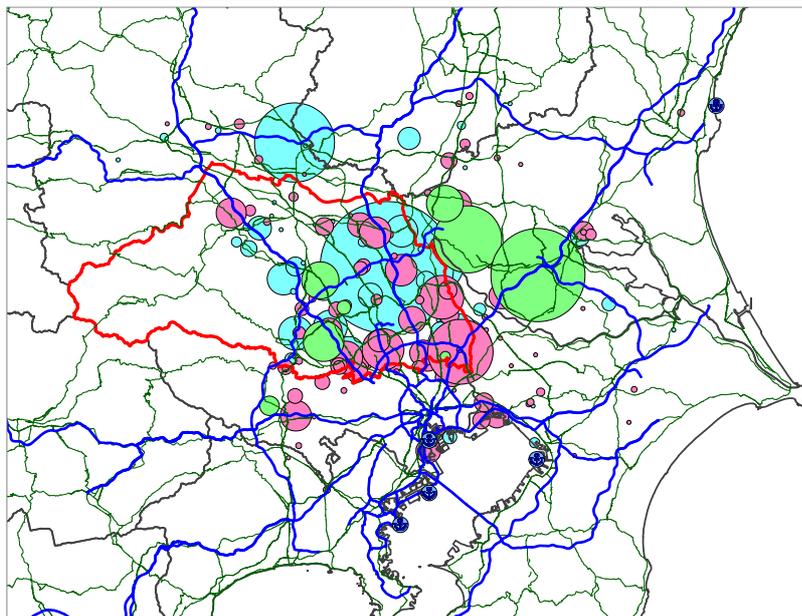
CRUに取り組む企業数
 合計 **203** 社



ラウンドのパターン



荷降場所、荷積場所、内陸コンテナ置場の地理的分布



- 輸入(荷降)
- 輸出(荷積)
- 内陸コンテナ置場

※円の大きさは、その場所が関わるラウンド件数を示す

※なお、福島県での輸入荷降、静岡県での輸出荷積が各1件ある

※内陸コンテナ置場は8箇所、うち埼玉県内は4箇所
埼玉県狭山市(お試しデポ)
八潮市(お試しデポ)
川越市、川島町
茨城県つくば市、坂東市、古河市
東京都八王子市

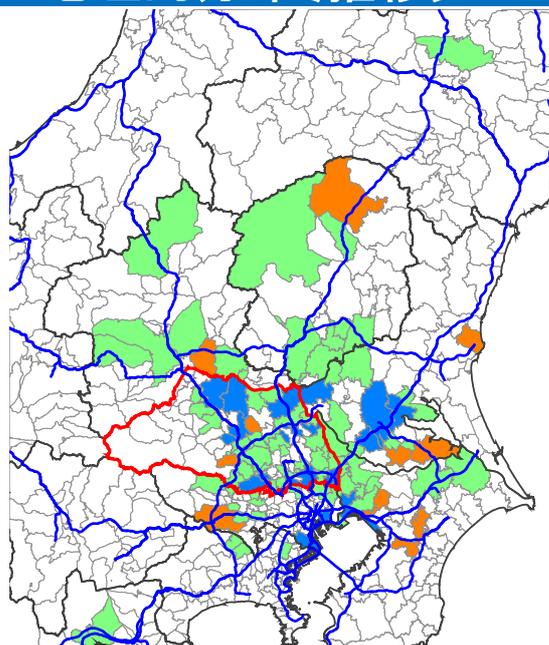
荷降場所、荷積場所の地理的分布〔推移〕



➤ 地域の拡大

輸入荷降、又は輸出荷積
があった市区町村
(最初に報告された年度)

- 平成26年度
- 平成27年度
- 平成28年度



荷の組合せ〔推移〕

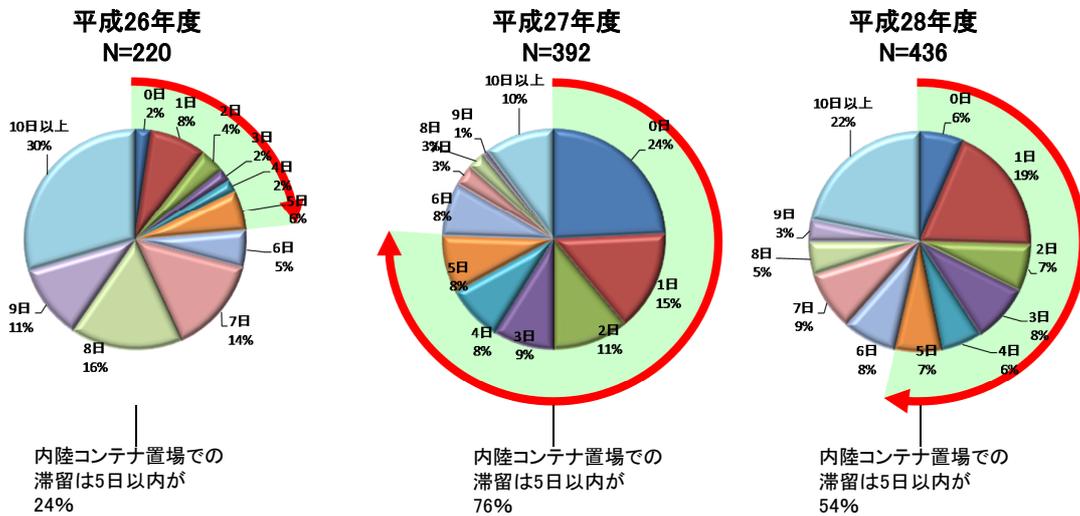
品目の拡大

組合せが報告された最初の年度 ■:平成26年度 ■:平成27年度 ■:平成28年度

9品目分類 81品目分類 具体例	林産品 製材	完成自動車 CKD、中古車	金属機械工業品		測量・光学・医療用機械 医療機器	軽工業品 紙・パルプ 紙、段ボール	衣服・身用品・はきもの 衣料品	雑工業品 その他日用品 雑貨	その他製造工業品 プラスチック	再利用資材 古紙、廃プラ	特殊品 輸送用容器 通い箱	合計	縦構成比
			自動車部品	産業機械 重機、農機、部品等									
林産品 製材	材木、建設資材									39		39	1%
自動車部品			57							71		128	4%
その他輸送機械 自転車										105		105	4%
産業機械 モーター										4		4	0%
電気機械 家電、オーディオ、機械部品、ソーラーモジュール			13				7		17	94	12	143	5%
測量・光学・医療用機械 医療機器										1		1	0%
化学工業品 染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品			1	2	183	5			12	55		258	9%
軽工業品 飲料							1					37	1%
衣服・身用品・はきもの 靴、かばん、アパレル、下着、タオル			3	8				1			52	64	2%
雑工業品 文房具・運動娯楽用品・楽器										7		7	0%
家具・家具備品				6	491		2	4		1,156		1,659	58%
その他日用品 雑貨				59		6		35		182		283	10%
ゴム製品 タイヤ				1	70					64		135	5%
その他製造工業品 プラスチック容器										1		1	0%
特殊品 動植物性製造飼料					3					1		4	0%
合計	1	6	177	747	5	9	11	39	29	1,832	12	2,868	100%
横構成比	0%	0%	6%	26%	0%	0%	0%	1%	1%	64%	0%	100%	

内陸コンテナ置場での滞留日数〔推移〕

内陸コンテナ置場での滞留日数 短縮化は引き続きの課題



※内陸コンテナ置場を利用したラウンドの荷降→荷積の日数。内貨転用除く。



【社会実験】

■コンテナ輸送距離 **32.8%減**

平均73.1km減/ラウンドコース1回
 コンテナラウンドコース実施前 634,207km → 実施後 425,994km

■輸送時間 **39.3%減**

平均4.9時間減/ラウンドコース1回
 コンテナラウンドコース実施前 35,803時間 → 実施後21,747時間

※算定条件

走行距離及び所要時間は国土交通省NITAS
 (全国総合交通分析システム)により計測
 港の待ち時間は、東京港60分、横浜港50分、川崎港10分
 として試算

(*東京港と横浜港は、各県トラック協会による「コンテナターミナルにおける海上コンテナ車両待機時間調査結果」に基づき概ねの平均値として設定。川崎港は川崎市ヒアリング結果に基づく)

■CO₂ **219.1 トン削減(総計)**

↑ スギ 15,651本/年 CO₂吸収相当

※算定資料 経済産業省及び林野庁
 輸送距離の削減に加え、港の待ち時間でのアイドリング削減も燃料消費量1.25L/hで試算し加えている

■輸送コスト **21.4%減**

※算定条件 S58タリフ

埼玉県都市計画課 試算
 (H28.10月末までの実績に基づく試算結果)
 ※内貨転用は除いて計算

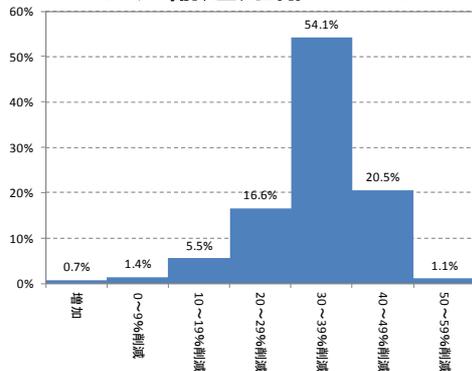


期待される効果

- ①企業の物流効率が向上(荷主・ドレージ)
- ②港での待機時間短縮による労働環境改善(ドレージ)

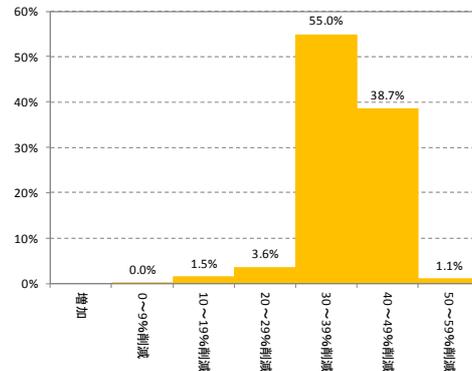
【社会実験】

■コンテナ輸送距離 平均 **32.8%減**



輸送距離の削減率ランク

■輸送時間 平均 **39.3%減**



輸送時間の削減率ランク

※計算上距離が長くなるものが21件あるが、いずれも時間は短くなる

期待される効果

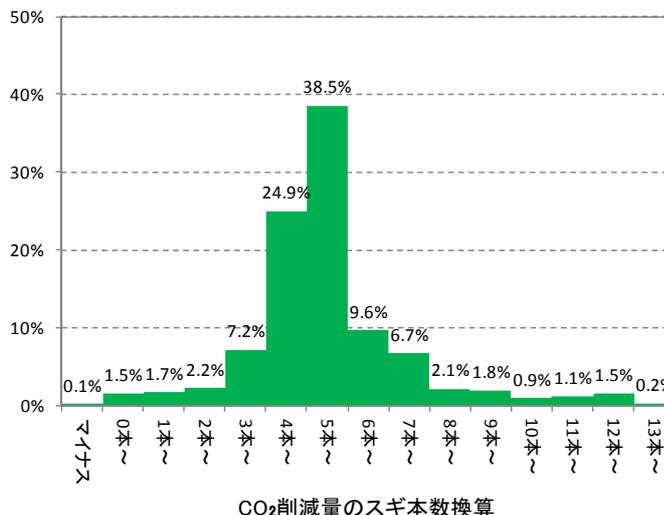
③トラック輸送距離減による環境への配慮(荷主・ドレージ)

【社会実験】

■ CO₂

1ラウンド当たり

スギ 5.5本分/年 CO₂吸収相当



期待される効果

④港でのコンテナストック過多解消の一助(船会社)

⑤企業の生産性が高まり

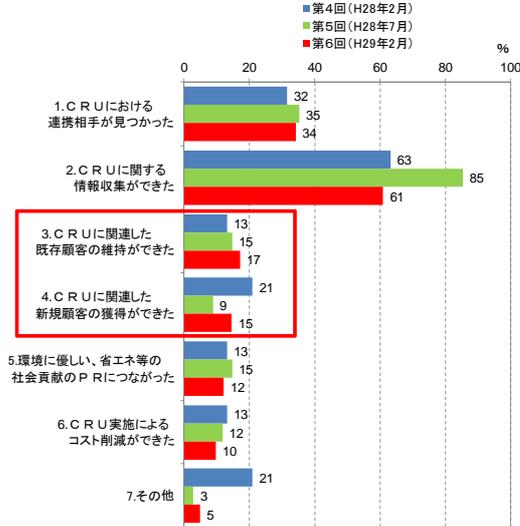
埼玉県へ 企業立地、既存企業の定着率向上(県)

➤ これらの効果については、定量化まではできていない
しかし、CRUをビジネスメリットに繋げる企業は多い



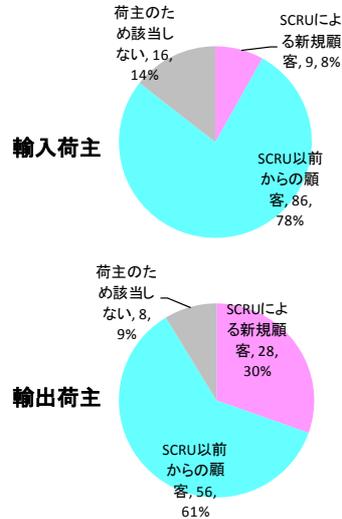
協議会への参加の成果

第4～6回協議会前の構成員に対する事前アンケートによる



CRUの荷主が新規顧客か否か

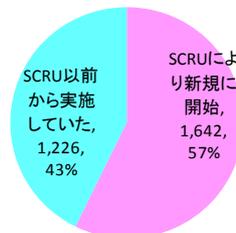
社会実験報告者19社に対する聞き取りによる



社会実験で報告したラウンドが新規のCRUか否か

平成26～28年度 N=2,868本の内訳(ラウンド本数ベース)

社会実験報告者19社に対する聞き取りによる



※以前から実施していた企業の組合せについても、社会実験で本数が大きく増えたとする企業が多い

➤ **CRUの取組本数は着実に増加している
しかし、全体から見れば未だ極わずか
引き続き継続的な取組が必要**

1. 埼玉コンテナラウンドユース社会実験の総括

2. 平成28年度の推進協議会の取組報告

3. 今後のSCRUについて

◆ マッチングにおける課題

情報共有

コンテナ本数の拡大

CRU新規導入検討企業の取り込み

◆ 成立条件に関する課題

内陸コンテナ置場の利用拡大

SOC、内貨転用

分科会

国際物流総合展

への出展

コンテナラウンドユースの
紹介・導入促進 **動画**

コンテナラウンドユースの
新規導入 **マニュアル**



ブース出展

【日時】 H28.9.13(火)～16(金)
10:00～17:00

【来場者数】 約400名

【展示内容】

- ・CRUのパンフレット、動画、パネル
- ・構成員のCRUに関するPR資料
- ・埼玉県の地域情報
(企業誘致、観光等)



プレゼンテーションセミナー

【日時】 H28.9.16(金) 11:00～11:30

【場所】 セミナーB会場

【来場者数】 約100名

【テーマ】 埼玉県から始まる構成員相互で推進する
海上コンテナ物流の効率化
－取組概要と事例発表－



No	発表内容	発表者	時間
1	はじめに	埼玉県	2分
2	【動画】 本編 コンテナラウンドユースのすすめ ～埼玉県でつながるラウンドユースの輪～		7分
3	《輸出入情報共有部会から》 ◆コンテナマッチングシステムの概要、利用方法についてご紹介	日本通運(株)	5分
4	《CRU先進部会から》 ◆「内貨転用」と「CRU」を組合せた取組事例のご紹介	濃飛倉庫運輸(株)	5分
5	【動画】 企業インタビュー編		6分
6	おわりに ◆協議会への参加案内 ◆お試しデポ体験部会(現地見学会)への参加案内	埼玉県	3分

国際物流総合展への出展



物流展で参加呼び掛け

日通、濃飛
事例を紹介

即日通、濃飛の両社が、同日に開催される「国際物流総合展」に出展し、物流展で参加呼び掛けを行う。この機会に、両社が推進している「コンテナラウンドユース推進事業」について、関係者へ呼び掛けを行う。同日、両社が推進している「コンテナラウンドユース推進事業」について、関係者へ呼び掛けを行う。同日、両社が推進している「コンテナラウンドユース推進事業」について、関係者へ呼び掛けを行う。

埼玉県CRU推進協

埼玉の「コンテナラウンドユース推進事業」は16日、東京ビッグサイトで開催された「国際物流総合展」でセミナーを実施した。同県都市整備部の伊藤拓真主事が、同日でラウンドユースを推進するメリットについて説明。同協会への参加を呼び掛けた。伊藤主事は「ラウンドユースは、濃飛倉庫運輸の事例紹介、日通はコンテナの輸出入時に活用できる情報システム「グローバルコンテナマッチングシステム」(GCM)の機能や利用方法を説明し、濃飛倉庫運輸は「ラウンドユース」のメリットを説明した。伊藤主事は「ラウンドユース」のメリットを説明した。

同協会

会ではラウンドユースを推進しようとする荷主や物流企業に対し、情報交換の機会を提供する。伊藤主事は「ラウンドユース」のメリットを説明した。伊藤主事は「ラウンドユース」のメリットを説明した。

市川尚史課長 坂野正和課長 伊藤拓真主事

市川尚史課長、坂野正和課長、伊藤拓真主事が、同日に開催される「国際物流総合展」に出展し、物流展で参加呼び掛けを行う。この機会に、両社が推進している「コンテナラウンドユース推進事業」について、関係者へ呼び掛けを行う。同日、両社が推進している「コンテナラウンドユース推進事業」について、関係者へ呼び掛けを行う。

日刊CARGO
平成28年9月29日掲載より

分科会開催結果



分科会名	テーマ	世話役	実施時期と内容
CRU先進部会	<ul style="list-style-type: none"> SOC 内貨転用 	濃飛倉庫運輸(株) 日本高速輸送(株) 日本フレートライナー(株)	【日時】 H28.8.30(火) 13:30~15:00 【場所】 埼玉県県民健康センター・中会議室 【内容】 ・SOCや内貨転用の実施可能性についてフリーディスカッション
輸出入情報共有部会	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有の仕方について マッチング相手探し 	日本通運(株)	【日時】 H28.8.30(火) 15:30~17:00 【場所】 埼玉県県民健康センター・中会議室 【内容】 ・輸出入情報共有の可能性についてフリーディスカッション
お試しデポ体験部会	<ul style="list-style-type: none"> デポ見学 コンテナチェック講習 	タツミトランスポート(株) 八潮運輸(株)	【日時】 H28.10.20(木) 9:20~13:40 【場所】 タツミデポ(狭山市) 八潮運輸デポ(八潮市) 【内容】 ・デポ見学(タツミデポ、八潮デポ) ・CRUについての説明 ・コンテナチェック等について
船会社意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> CRUの取組全般 	—	【日時】 H28.11.25(金) 15:30~17:00 【場所】 東京都内 【内容】 ・CRU全般について

CRU先進部会

主な意見

【SOC】

- ◆ SOC利用という新しい視点の気付き。
- ◆ SOC方式の考え方、荷主、船会社、輸送業者、各々の考え方の違いがわかった。
- ◆ SOCの理解度が希薄で、難易度が高く、課題が多数で、進行は時間がかかる。

※SOCとは、荷主コンテナ (Shipper's Own Container) の略称。

ここではコンテナを所有する船会社の合意を得て、輸入時と異なる船会社を利用して輸出に転用すること。

【内貨転用】

- ◆ 内貨転用にかかる人量、時間数の説明が参考になった。
- ◆ 新たな内貨転用の実例など、新しい例が聞ければありがたい。

【共通】

- ◆ 内貨CRU、SOCともに、成立条件のポイントが、はっきりした。
- ◆ 今後もSOCと国内転用について情報を得たい。

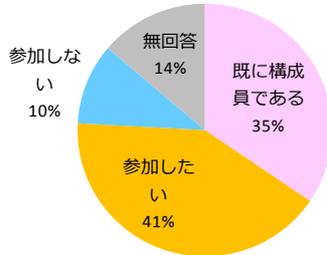
輸出入情報共有部会

主な意見

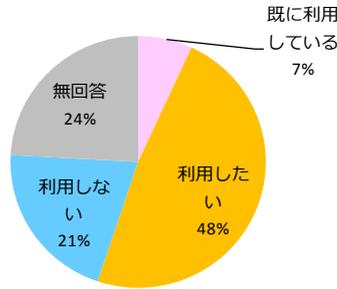
- ◆ マッチングの拡大を問題としており、今回紹介のあった日本通運のマッチングシステムの導入を検討したいと思う。
- ◆ マッチングシステムは良いシステムと思うが、利用者の利害関係が難しい。
- ◆ 荷主には大変メリットがあるが、陸運業者にとってデータの共有は難しい。試験的にデータを入力した事例の発表が必要かもしれない。
- ◆ 荷主側の意見とドレージ業者の意見に相違があり、生の声が聞けた。
- ◆ 一運送業者(フォワーダー)が、データ共有システムを持つ困難さを理解できた。

お試しデポ体験部会

S CRU協議会に 参加したいか？



お試しデポを 利用したいか？



タツミデポ (埼玉県狭山市)



八潮運輸デポ (埼玉県八潮市)

参加者の意見

- ◆ もっとくわしく詳細を教えて欲しい。
- ◆ 保管日数の長期化(最大2週間の保管期間が必要)
- ◆ リフトオンオフが出来ること

船会社からの意見

主な意見

- ◆ 船会社の立場から、内陸情報を共有したい。各ステークホルダーの考え方、方針等にも興味がある。ドレージ業者のCRUに対する本音も聞きたい。
- ◆ 本来コンテナは船会社のものである。船会社のコスト、メリットについても考えていただきたい。CRUにより利益配分をする際には、船会社も入れて欲しい。
- ◆ 船会社も、会社によって事情が異なる。港にターミナルを持っている船会社の場合、内陸デポは単純に追加コストになる。デポを使わないCRUなら対応できるが、デポを利用するCRUには抵抗感がある船会社が多い。
- ◆ 船会社にとっては、荷主がつくことがメリットである。その点、船会社の社内でも、営業部門はCRUに積極的である場合もあるが、一方で、コンテナ管理部門はコンテナ管理の負荷増大などを理由としてCRUに否定的な場合が多い。
- ◆ 関東エリアの倉庫として埼玉県での倉庫増床が続いている。「CO2の削減」という大きな視点での本質を理解した上で、経済原理上の問題を解決できるように、各ステークホルダーへのインセンティブ提供が必要。



- ◆ CRU事例集（仮）の作成
 - ・各構成員のCRU取組などを取り纏めた冊子を作成。
 - ・県HPで公開予定

【事例掲載の申込済・調整中の構成員数】
12社

(株) サイタマ | 輸出荷主 会社
ロゴ

URL | <http://www.pref.saitama.lg.jp/>

CRUに取り組んだ経緯
ドライバー不足等の諸課題に対処するため CRU に取り組み始め、SCRU に参加し情報交流の場をパートナーを発掘することで、取組を拡大しています。

CRUに取り組んだ成果

2014年	2015年	CO ₂ 排出量
CRU実施本数	1,234 → 2,345	345 ↓削減

取組のポイント
マッチング率を向上させるため、協力会社のパンフレットに合わせて自社デバンニングのスケジュールを組むなど、関係会社と連携しながら荷主としてCRUを推進する体制を構築しています。

今後の取組について
関東エリアの拠点として、圏央道沿線に新たな製造拠点（埼玉県〇〇市）を整備中であり、CRUの拠点として計画しており、物流担当員を増員し、年間3,000本のラウンドユースを目標します。

CRU実例
A社〇〇センター（埼玉県〇〇市）と当社〇〇工場（埼玉県〇〇市）とで、内陸コンテナ置場（埼玉県〇〇市）を利用し実施しています。

取組前

取組後

問い合わせ先 | (株) サイタマ CRU推進本部 048-XXX-XXXX

目次



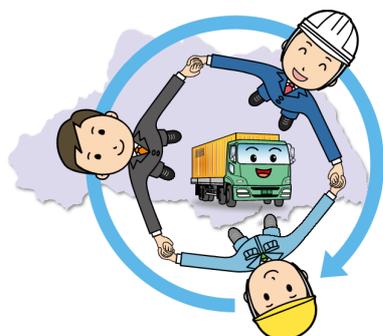
1. 埼玉コンテナラウンドユース社会実験の総括
2. 平成28年度の推進協議会の取組報告
3. 今後のSCRUについて

埼玉県の今後の方針

- ◆ 社会実験からCRUに効果があることが明確となった。
- ◆ 今後はCRU件数を増やしていくために、事業者同士でのかかわりをサポートするような役割を務める。協議会を継続し、各行政機関で行っている補助メニュー紹介など、今後も民間の取組みを応援する。
- ◆ 協議会は構成員各社のPRの場として活用してもらいたい。また協議会活動により新たなつながりが出来ることを期待したい。

おわりに

**今後も協議会の運営に
ご協力をお願いします**



埼玉県マスコット「コバトン」

埼玉県でつながるラウンドユースの輪